

# コミュニティの運営からみたバリ島集落の 集住構造について

～デサ・アダット・ティンブラー Desa Adat Timbrah を例に～

大谷 聡  
中岡義介

佐賀大学低平地研究センター

兵庫教育大学生活健康系教育講座

## 1 はじめに

バリ島の集落には、カヤンガン・ティガ Kayangan Tiga (3大寺院) と呼ばれるプラ・プサ Pura Puseh (祖先を祀る寺院)、プラ・バレ・アグン Pura Balai Agung (集会所付きの村を守護する寺院)、プラ・ダラム Pura Dalem (死者の寺院) の3つの寺院がある。一組のカヤンガン・ティガを信仰する信徒集団は、デサ・アダット Desa Adat (慣習的な村) と呼ばれ、空間的には、3大寺院を軸として住居の集まる集住地を形成する<sup>1)</sup>。すなわち、バリ島の集落は、空間的にもコミュニティとしても、デサ・アダットという単位を基本として形成されている。

本稿では、デサ・アダットの自治に運用される、アダット Adat (慣習法) の記されたアウィッグ・アウィッグ Awig-awig を取り上げ<sup>2)</sup>、その内容から、バリ島の集住コミュニティがどのように運営されているのかを明らかにし、そこからバリ島の集住構造について考察する。

研究対象地は、バリ島東部カラングサ県のカランガッサム県のデサ・アダット・ティンブラー (以下、ティンブラー) である。ティンブラーは、バリの古い集落 (先住民バリ・アガ Bali aga の集落) として有名なテンガナン Tenganan の東に位置している。また、古い慣習を残す集落として研究対象に取り上げられることのあるブグブグ Bugbug, アサク Asak とは隣接しており、これらと同様に、観光地化の直接的な影響の少ない、バリ島の中で比較的古くからの生活を残すとみられる集落である。ティンブラーの人口は2690人 (1994年時点)、集住地は350戸あまりの住居によって形成される。

## 2 コミュニティの構成

### (1) コミュニティを構成する集団

ティンブラーの住民は、成人して結婚すると、クラマ・デサ Krama Desa (デサの会員) となる。クラマ・デサになるには、結婚の他に、ヒンドゥ教徒であること、父系の親族集団であるパウマンから田圃をデサから宅地をそれぞれ譲り受けていることが、必要な条件である。

図-1～3に示すように、クラマ・デサは様々な集団を形成する。それは1) デサの運営のために形成される集団、2) 住民の社会的属性 (血筋によって受け継がれる) を示す集団、3) 共同作業のための集団と、大きく3つの属性にわけることができる。

デサの運営のために形成される集団は、まず、クラマ・デサの中から、選挙によって村の評議会プラジュール・デサが27名選出される (図-1)。プラジュール・デサは、クラマ・デサの中から、プラ・ワヤ Prawayah (長老会)、プマンクー Pemangku (寺院付きの僧侶)、グル・ガンバン Guru Gambang (ガンバン<sup>3)</sup> 奏者)、バリサダ Parisada (宗教議会)、スカー・ジャガ・バヤ Sekeha Jaga Baya (自警団)、スカー・ゴン Sekeha Gong (ゴン<sup>4)</sup> 奏者)、スカー・ウダギ Sekeha Undagi (儀式の際にクラマ・デサに供物の正しい作り方を指導する集団)、スカー・タバン・クタ Sekeha Taban Kuta (儀式用農作物を作るための田畑を耕作する集団) を任命する。

住民の社会的属性を示す集団には、①デサ・アダット (集住地を包括する集団)、②パウマン Pau-man (父系の親族集団で、成員に田圃を与える)、③プマクサン Pemaksan (母系の親族による信徒集団)、④バンジャール Banjar (主に集住地の衛生管理を行うための集団で、②③に加入していな

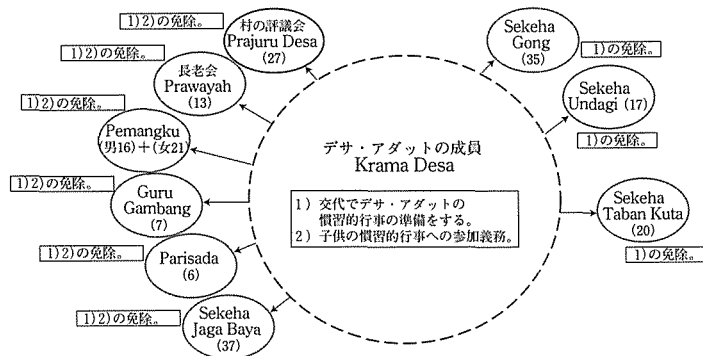


図-1 デサの運営のために形成される集団

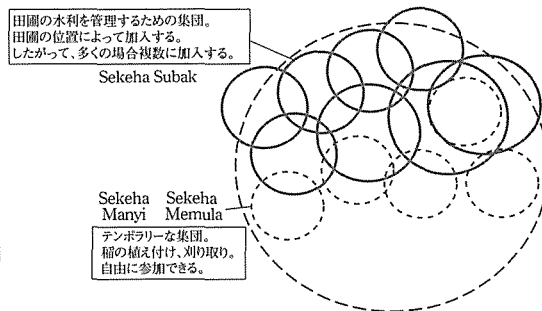


図-3 共同作業のための集団

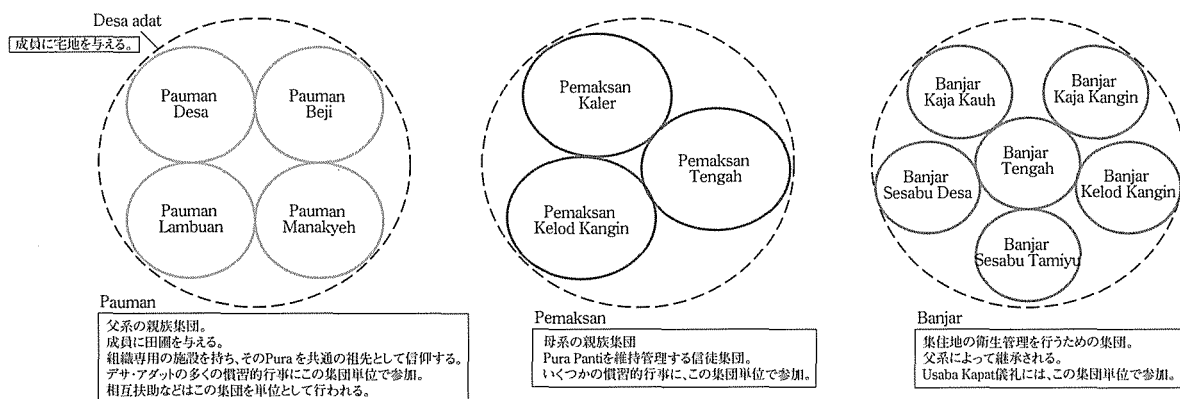


図-2 社会的属性を示す集団

い他村からの移住者なども加入)がある。これらの集団は、それぞれに会員規約であるアウィッグ・アウィッグを有しており、慣習的儀式に応じて、それに関わるときの単位となる。

この他、住民が任意に加入する共同作業のための集団として、水田の水利組合であるスバック Subak や各種の職業集団などがあり、これらはスカー Sekeha と呼ばれる。スバックは、水を守る祠を共同で管理し、そのための儀式を共同でおこなうというように、ある目的のために集まった集団には、共同で儀式を行うための集団であるという側面も持っている。

なお、クラマ・デサになる前、つまり結婚するまでのデサの住人は、成年男子による神聖な儀式集団であるトゥルナ・アダット Teruna Adat と成年女子による神聖な儀式集団であるダハ Daha, 社会生活の規範をつくるための青年男女の活動集団であるトゥルナ・トゥルニ Teruna Teruni の3つのいずれかに入る。トゥルナ・アダットとダハは、問題のない各家庭(例えば、片親の場合などは加入できない)からひとりが加入するので、その弟妹にあたる者は、成人したとき(男15歳、女初潮後)は、トゥルナ・トゥルニに入ることとなっている。このように、クラマ・デサへの加入は、成長にしたがい段階的に行われる。

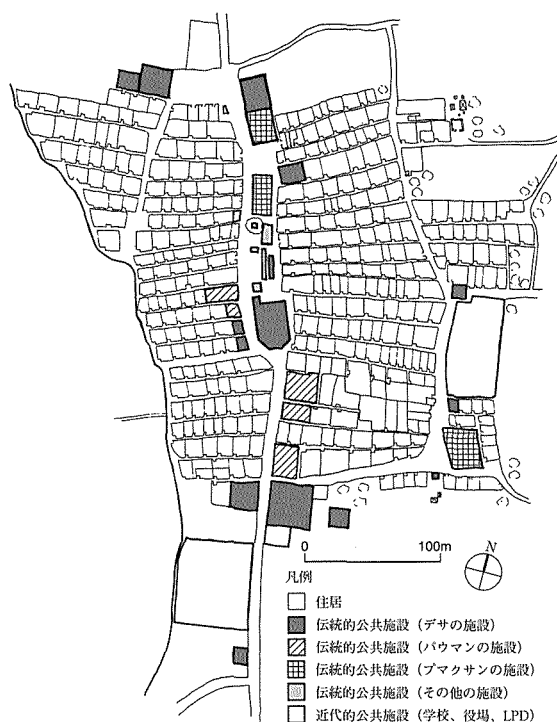


図-4 ティンブラーの空間構成

## (2) ティンブラーの空間構成

図-2は、ティンブラーの空間構成を示している。これをみると、伝統的公共施設の多くは、集住地の中心を南北に帯状に配置されている。住居は、そうした帯状の空間を軸として、線対称に東

西にのびるように形成されている。

アウィッグ・アウィッグに記されるデサの所有物は、①カヤンガン・デサ Kahyangan Desa (デサの寺院)、②プルマハン・デサ Perumahan Desa (デサの敷地<sup>5)</sup>)、③プラバ・プラ Peraba Pura (儀式に使う供物のための農地)、④ルラングナン Rerangenan (娯楽<sup>6)</sup>)、⑤バレ・デサ Bale Desa (市場)の5つである。この中には、各パウマンの施設、各プマクサンの施設プラ・パンティ Pura Panti、トゥルナ・アダットのための建物バレ・トゥルナ Bale Teruna とバレ・ランタン Bale Lantang、トゥルナ・トゥルニのための建物サンガール Sangar、ゴングのための建物バレ・ゴン Bale Gong などの施設は含まれていない。また、パウマン、プマクサンの施設の管理はそれぞれの組織が行うと記されているように、パウマン、プマクサンなど各集団が使う施設については、それぞれの集団が所有と管理をしていることがうかがえる。

すなわち、公共施設は集住の軸を形成するが、そのすべてがデサの公共施設というのではなく、それぞれの集団によって所有・管理される施設も多数含まれている。そうした軸の中心に、デサを守護する寺院であるプラ・バレ・アゲンがあり、その中のパトカン Patokan という棟にアウィッグ・アウィッグは、納められている。

### 3 コミュニティの運営

#### (1) 住民の義務

クラマ・デサの義務は、①儀式毎にその準備や儀式中の所用を行うサヤ saya に輪番でなること、②デサの為の慣習的な使役を果たすこと、③慣習的おこない、④その他である。①は、一部の特権階級<sup>7)</sup>、慣習村を運営する評議会プラジュール・デサ、役人、一般企業で働く者、他の村に働きに出ている者などを除いて全てのクラマ・デサに適用される。②の使役は、プラジュール・デサの任命により組織される集団(図-1)とブユット Buyut (僧侶)、青年男女のトゥルナ・アダットなどへの加入である。これらの使役を断ると、各々のパウマンによって与えられた田圃が没収される。③は、儀式時に路地の出入口や通りに飾り付けをすること、儀式時に御神体をのせた御輿を担ぐこと、プラに入るときや儀式時には正装をすること、また、日常的には、大通り沿いの住居の住民は毎日通りの掃除をすることである。④は、各組織の話し合いに参加し、話し合いで決まったことを守り、守れないときは相応の罰を受けるということ

である。

これらの義務・使役は、年齢が70歳を越える、不治の病にかかるなど、ニャダ Nyada と呼ばれる状態になると免除される。また、クラマ・デサを辞めるのは、1) 死んだ場合、2) 自らの要請でクリアン・デサ・アダット Kelian Desa Adat (デサ・アダットの長)の許可を得て、他村に移り住んだ場合、3) アウィッグ・アウィッグに従えない場合、である。クラマ・デサを辞めると、デサの中での全ての共有の所有権を失う。

#### (2) コミュニティの運営

##### 1) プラジュールの役割

ティンブラーはプラジュール・デサによって運営される。同様に、パウマン、プマクサン、バンジャールは、それぞれの集団毎のプラジュールによって運営される。各集団のプラジュールは、会員の話し合いによって会員の中から選ばれ、その任期は5年である。プラジュール・デサは、パウマン、バンジャール、プマクサンといった集団のプラジュールから選ばれるので、コミュニティの運営は組織的に行われる。

クリアン・デサ・アダットは、プラジュール・デサの任命と、規則違反あるいは悪事を働いた場合のプラジュール・デサの解任の権利を持つ。それ以外の理由では、プラジュール・デサの解任は、3/4以上のクラマ・デサが出席した集会で、過半数の賛成を得ることによって決められる。

プラジュール・デサの義務と使役はクラマ・デサと異なり、儀式のサヤになることはない。また、サヤと同様、儀式後には、ドゥム・ドゥマン Dum-duman (お供え物のお裾分け)を得る。プラジュール・デサには、ブクティ Bucti (デサの所有する農地)が与えられ、そこでの収穫物の一部がその仕事の報酬となる。

プラジュール・デサの具体的な活動は、月に一度、バレ・プジェネンガン Bale Pejenengan (プラ・バレ・アゲンの中の東側の棟)で定期集会サンカップン・プラジュール・デサ Sangkepan Pura-juru Desa を行い、デサ・アダットの運営について話し合うことである。そこで決められたことは、全クラマ・デサを集めて行われる集会パルマン・デサ Paruman Desa の時、クリアン・デサ・アダットにより、クラマ・デサの権利や義務とデサの金の使い方、プラジュール・デサの今後の予定とともに説明される。クラマ・デサの集まるパルマン・デサは、ウサブ・スンプー Usaba Sumbu<sup>8)</sup> という儀式の時に行われ、サンカップン・プラ

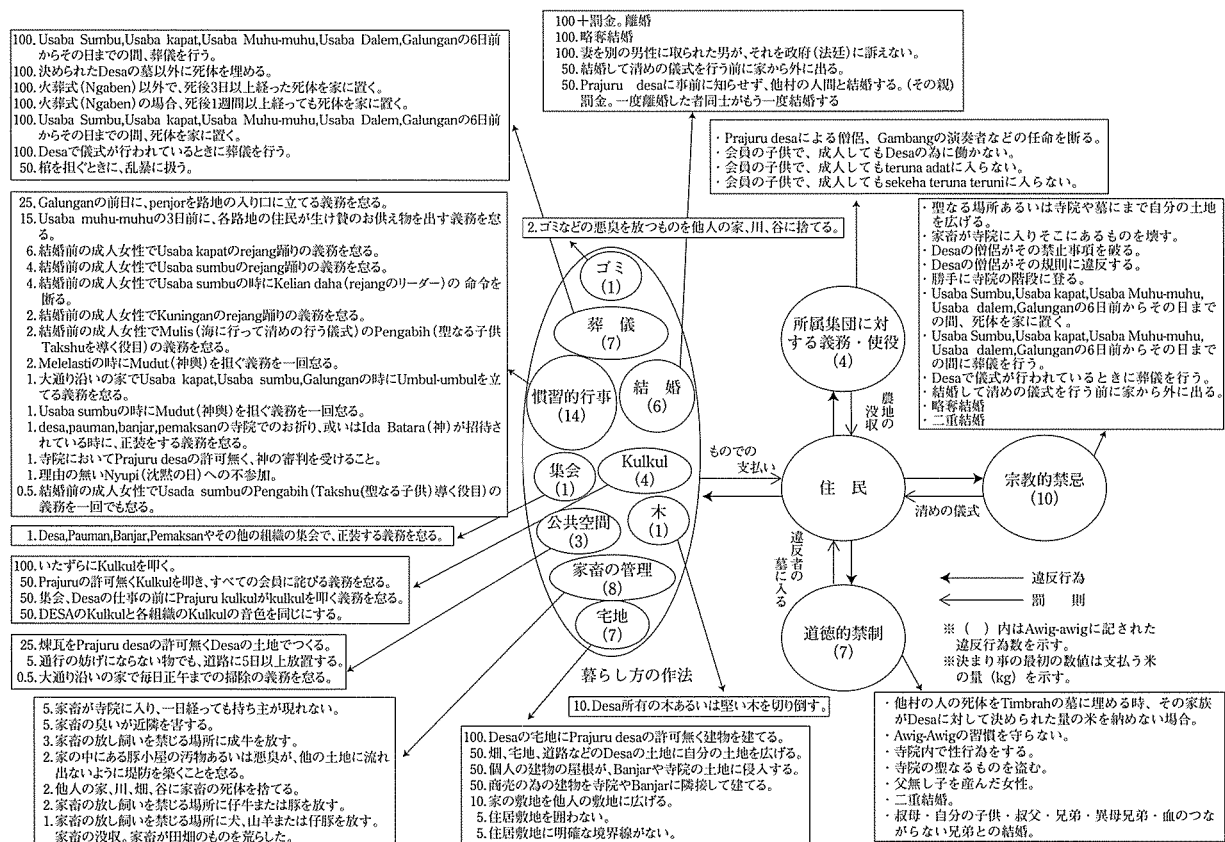


図-5 Awig-awig の罰則

ジュール・デサで決まった事は、このときのクラマ・デサの承諾無しに実行することは出来ない。

## 2) 社会的属性を示す集団の役割

パウマン、バンジャール、プマクサンの役割は、その構成員の個人的な儀式や冠婚葬祭において、(人的・金銭的な)援助をすることである。クラマ・デサは、受けた人的援助に対して、お返しに食事などを提供することが義務づけられている。

## (3) 住民の生活

### 1) 宅地の使い方

デサの所有となる各宅地は、決められた広さで、厳密に区切られている。宅地内の建築物は居住者の所有となるが、それを建てるにはプラジュール・デサの許可が必要となる。宅地の利用権は、居住者の子孫(実子、養子、親戚)に相続されるが、相続人がいない場合、デサに返還される。また、家畜や植林といった隣人との諍いのもととなるようなことについても、予めアウィッグ・アウィッグで注意書がなされており、問題の調停はプラジュール・デサによって行われる。

### 2) 宗教

宗教については、アウィッグ・アウィッグの中で1章を割いて仔細に記されており、住民の暮らしの中で宗教が大きな意味を持つことがわかる。

その内容は、寺院について、寺院の祭壇の名称、その配置、寺院の誕生祭、個人的な儀式を行うときの手順、寺院を管理する組織、僧侶となる人の条件、僧侶の役割、寺院内での決まり事が記されている。個人的儀式についても、儀式の心構え、供物の種類、儀式の行い方について記されている。

### 3) 冠婚葬祭

結婚については、結婚の定義、結婚の仕方、結婚の条件、近親婚、略奪婚、重婚の禁止などについて記されている。離婚については、離婚の方法、離婚したときの罰則、財産の分与方法などが記されている。葬儀に関しては、死者が出てからの手続き、葬儀の行い方などが記されている。これらの行事には、社会的属性を示す集団の援助を請えるが、その場合、食事などのお礼をすることが義務付けられている。また、喪の穢れとその対処法についても記されている。

## 4 コミュニティの管理

アウィッグ・アウィッグの中で、具体的な罰則の示された項目を取り出し、罰の種類によって分類して示したものが、図-5である。罰の種類は、1) 土地を没収される、2) 死後に違反者の墓に埋められる、3) 清めの儀式を行わなければなら

ない、4) ものを支払う、の4つに分類できる。これらは罰とその条文の内容から、以下の通り解釈できる。1) 所属集団に対する義務・使役を怠った場合の罰。2) 道徳的禁制を破った場合の罰。3) 宗教的禁忌を犯した場合の罰。4) 暮らし方の作法を守らなかった場合の罰。

図-5をみると、1) は4項目、2) は7項目、3) は10項目、4) は50項目あり、4) の暮らし方の作法に関する罰則の数が最も多い。

罰則数が際だって多い4) についてみると、50項目のうち29項目が日常生活に関わることで、残りの21項目が葬儀や慣習的行事の儀式に関わることである。支払うべき米の量から罰の重さをみると、死体の措置、葬儀、結婚、クルクル、宅地の利用に関する項目で罰が重く、逆に儀式、家畜の管理に関する項目で罰は軽い。また、儀式や家畜の管理に関する項目は、それぞれ14項目と8項目と数が多く、仔細に罰則が決められている。

このように、アウィッグ・アウィッグには、デサに対する義務・使役、道徳的禁制、宗教的禁忌、暮らし方の作法についての罰則が記されており、その中で暮らし方の作法についての罰則が仔細に記述されている。中でも、儀式と家畜の管理の項目についての罰則は軽く、項目の数も多いことから、これらの問題が集住地の暮らしの中で頻繁におこり得ることであると考えられる。特に儀式に関する項目は仔細に渡り、儀式が住民の日常生活の中で頻繁に行われる行為であることがわかる。

## 5 コミュニティの運営からみた集住構造に関する考察

ティンブラーにおいて、集住地内の宅地は、デサによって管理される。一方、農地はパウマンによって管理される。つまり、集住地の住民の生活の糧は、父系の親族集団であるパウマンに所属することで保証される。そうした出自を別々にする集団が、集まって組織されたものがデサという集住体である。このような集住体においては、別々の集団に属する人々をひとつにまとめるための手法が必要となる。その手法のひとつが、集まって住むための規則を書いたアウィッグ・アウィッグである。アウィッグ・アウィッグには、集まって暮らす作法について、助け合いの貸し借りを含めて示されており、それをもとに集住体の人々の中で起こる諍いについては、選挙で選出されたプラジュール・デサが調整するというように、集住地の運営には民主的な制度がみられる。また、集団

は、それぞれに独立した規則を持つが、デサの代表であるプラジュール・デサを各集団の代表の集まりによって構成することで、デサとそれ以外の集団の調整はヒエラルキカルに行われている。

アウィッグ・アウィッグに記された住民の義務の中には、デサの儀式の準備当番と儀式への参加がある。また、罰則には、儀式についての項目が仔細に記されることから、儀式が人々の暮らしの中でいかに頻繁に行われるかがわかる。アウィッグ・アウィッグに集団からの援助に対するお返しが明記されるように、自主的精神による助け合いが希薄と考えられるところでは、儀式を通じて集住体の内部の人々は付き合うというように、きわめて形式的に儀式だけは一緒に行うことで集住体をまとめようとする意図がそこにみえるのである。すなわち、儀式もまた、集住体の人々をひとつにまとめるための手法であるといえる。

このように、異なる出自(親族集団)の人々が集まってティンブラーという集住地は形成され、それら複数の出自集団をまとめるために、決まり事であるアウィッグ・アウィッグや頻繁に行われる儀式がある。人々は、儀式に自らすすんで参加するのではなく、それぞれの集団で決められた慣習にしたがって義務的に参加する。そうした義務による儀式への参加を通して集住地の人々は交際を行い、集住地は管理・運営されている。それは、義理でまとめられた集住共同体ということが出来るだろう。そうした義理の集住共同体の人々の関係を構造付けるための儀式の空間、かつ象徴となる空間が、公共施設の集まる軸であり、その中心施設であるプラ・バレ・アグンであるといえる。

### 補 注

- 1) たとえば、参考文献(1)など。なお、デサ・アダットは、行政区分であるデサ・ディナス Desa Dinas (行政的な村)とは、領域を異にする場合が多い。バリ島は、インドネシア共和国の27の州の内のひとつの州であり、バリ州は、8つの県=カブパテン Kabupaten と1つの特別行政区からなる。県の下に群=クチャマタン Kecamatan、そしてその下に行政村があり、さらに行政村は行政的な部落であるバンジャール・ディナス Banjar Dinas によって構成される。これらの行政区分は、オランダ植民地時代の政府が便宜上行った地域的な線引きを、基本的にはそのまま独立後インドネシア政府が用いたものである。これに対して、慣習村は、多様な機能の個々別々の集団が、部分的にのみ秩序を保ちつつ集積したもの(参考文献(2))であって、それが一組のカヤンガン・ティガを信仰する信徒集団としてまとまったものである。つまり、慣習村を構成する人々は、単純に地縁によって領域を線引きできるものではない。集住地は行政的末端として行政村に治められる一方、慣習村による自治がおこなわれている。こうした自治は、それぞれの慣習村に独自のアダット(慣習法)

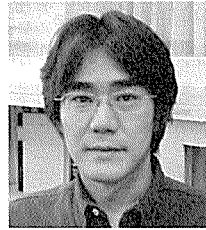
に基づいて行われる。

- 2) ティンブラーのアイウィグ・アイウィグは、1987年にデサ・アダットの評議会であるプラジュール・デサ Prajuru Desa によって編集された。アダットは、もともとロンタール椰子の葉に書かれたものをそれぞれのデサ・アダットが保持していたのだが、オランダ占領期以降にその骨董的価値によって多くが持ち去られ、現在は文字通り慣習として、明文化されず住民の意識に委ねられるところが多い。しかし、近年、州政府によってアイウィグ・アイウィグの明文化が推奨され、これによってそれまでの慣習に加えて新たな行政的側面を含んだアイウィグ・アイウィグが整備されつつある。ティンブラーでは、ロンタール椰子にバリ文字で書かれたアイウィグ・アイウィグが、プラ・バレ・アグンのパトカンの中に施錠保管されている。なお、今回テキストとして用いたのは、ローマ字表記のバリ語で紙に印刷されたものであり、その翻訳には、ティンブラー出身で日本語通訳をされている Nengah Kari 氏の多大なるお力添えを頂いた。
- 3) 竹製の鍵盤の木琴型の楽器。儀礼時に演奏される。グル・ガンパンは、極めて神聖な楽器とされる鉄琴スロンディン Selonding の演奏も行う。
- 4) 銅鼓。ガムラン Gamelan 音楽を奏でる諸楽器を指す。主に儀礼時に演奏されるが、ガンパンに比べ、より余興的要素が強い。
- 5) 寺院の敷地、カラン・アヤハン・デサ Karan Ayahan Desa (宅地。居住者はデサのための仕事を果たす義務を有する。)、墓を指す。
- 6) パドルウェン Padruwen (スロンディン、ガンパン、ゴン)、ワリ Wali (レジャン＝若い女性の踊り、ゲブック・ブラ・ワヤ＝僧侶の踊り、ドゥディオン＝トゥルナ・アダットの踊り、キドゥン・ワリ＝唄) など。
- 7) ティンブラーにカースト制はないが、ブンデサ bendesa と呼ばれるかつての統治者の子孫の人々は、ある種の特権階級となっている。
- 8) サカ暦のカロ Karo (2月) に行われる祭り。サカ歴とは、陰陽暦で、月の満欠により完全に月の見えない新月から次の新月までを1月とする暦。1月は、29日または30日からなり、1年12ヵ月は、354～6日からなる。

## 参考文献

- (1) 後藤隆太郎、中岡義介、大谷聡：バリ島にみる軸と集住地の発展の関係について～軸による都市形成の基礎的研究1～、日本建築学会大会学術講演梗概集、F-1, pp. 27-28, 1995.
- (2) クリフォード・ギアツ著、小泉潤二訳：ヌガラ 19世紀バリの劇場国家、みすず書房、1990.

## 著者略歴



### 大谷 聡

(おおたに さとし)

- 1996年 佐賀大学大学院工学系研究科博士前期課程修了  
2000年 佐賀大学大学院工学系研究科博士後期課程修了  
2000年 佐賀大学低平地研究センターセンター講師  
博士(工学)

## 著者略歴



### 中岡 義介

(なかおか よしすけ)

- 1970年 京都大学大学院工学研究科(建築学専攻)修士課程修了  
1972年 福井工業大学建設工学科講師  
1976年 福井工業大学建設工学科助教授  
1985年 福井工業大学建設工学科教授  
1990年 佐賀大学理工学部教授  
1998年 兵庫教育大学生活健康系教育講座教授  
工学博士